

# スティル・ライヴズ： 脊髄損傷と共に生きる人々の物語

STILL LIVES: Narratives of Spinal Cord Injury

ジョナサン・コール 著  
河野哲也・松葉祥一 監訳

身体運動と感覚が不在であるならば、その人の人格はどうなってしまうのでしょうか。

本書は、脊髄損傷を被っている人たちの車椅子での生活について「医者・患者」関係には入りこまずに観察し、感覚と運動のない生活——それは様々な痛みを伴います——とはどのようなものかを、当事者である彼ら／彼女らへのインタビューしたものです。

患者の幾人かは、車椅子の生活の状況に平常心を奪われ、幾人かは、麻痺した身体を社会変革の手段として行使します。患者たち自身で様々な異なるその損傷への向き合い方と、そこから生じる生活の違いを、医師としての専門的な医療の視点に偏らず、著者は患者が置かれた身体の現象と社会的状況から、動かない身体をもった生活がどのようなものか、また患者たちと関わる人々も含めてその多様な生のあり方を示します。

本書の語りは、「不幸な障害者」としてではなく、脊髄損傷を負った人々の経験の豊かさと可能性を明らかにして、私たちと身体の関係性を新しい視点から考え直す機会を与えてくれるでしょう。

本書は、医学や看護の分野のみならず、特別支援教育、福祉、教育学、ケア、障害学、哲学などの分野の研究者には必読書であり、何よりも当事者たち、そして家族や友人たち周りの人々、つまり、いま生きている私たちにとっても重要な読み物になるでしょう。



2013年9月末刊行予定  
四六判上製・464頁予定・予価4725円(税込)  
ISBN978-4-588-67212-5 C0030

ジョナサン・コール (Jonathan Cole)  
臨床神経生理学者であると同時に、哲学的な現象学的身体論の専門家。現職は、プール病院臨床神経生理学医長であり、ボーンマス大学訪問教授。イギリス臨床神経生理学会前会長、神経生理学会国際会議前会議長など要職を歴任。2010年には立教大学、立命館大学などで招待講演が行われている。  
著書：『顔の科学：自己と他者をつなぐもの』（茂木健一郎監訳、恩蔵絢子訳、PHP研究所、2011年）。  
論文：「中から見たメビウス症：顔の表情のない生活」（『現代思想・臨床現象学：精神医学・リハビリテーション・看護ケア』2010年10月号）、「変貌する身体性：メルロ＝ポンティと神経障害」（『現代思想・臨時増刊メルロ＝ポンティ』2008年12月）など。

## 河野哲也

立教大学文学部教育学科教授。著書に、『意識は実在しない：心・知覚・自由』（講談社選書メチエ）、『道徳を問いなおす：リベラリズムと教育のゆくえ』（ちくま新書）など。

## 松葉祥一

神戸市看護大学教授。著書に、『哲学的なもの政治的なもの：開かれた現象学のために』（青土社）、『ナースのための実践論文講座』（人文書院）など。

切り取って最寄りの書店にお渡しください

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 法政大学出版局 TEL 03-5214-5540/FAX 03-5214-5542

注  
文  
書

スティル・ライヴズ：脊髄損傷と共に生きる人々の物語

書店名・番線

ISBN978-4-588-67212-5 C0030 予価4725円(本体4500円+税)

お名前：

TEL：

ご住所：

## 『スティル・ライヴズ』 ●関連書

帖合・番線

●——法政大学出版局 2013年02月刊行 定価5985円（本体5700＋税） A5判上製・438頁  
法政大学大原社会問題研究所／菅富美枝編著

### 成年後見制度の新たなグランド・デザイン ISBN978-4-588-62524-4C1036

消費生活、ケア、介護、福祉など、人々が生きていく現場で、保護あるいは庇護の対象でしかなかった人々が自分自身の権利を行使し積極的な主体となるために必要とされる支援とは何か。本人を中心とした多層的・複合的な支援の枠組みの可能性に展望を開くため、成年後見制度の抜本的再構築を目指し、新たな法的関係を築くためには何が必要かを、様々な分野の専門家たちが論じつくす。

帖合・番線

●——法政大学出版局 2012年06月刊行 定価4725円（本体4500＋税） A5判上製・342頁  
法政大学大原社会問題研究所／原伸子編著

### 福祉国家と家族 ISBN978-4-588-64543-3C3030

1980年代以降は福祉国家が縮減していくとともに、他方では、グローバリゼーションのもとで家族政策が主流となっていく歴史的な過程であった。本書は、福祉国家の今後の方向性に対して社会政策としての家族政策がもつ含意を、アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、日本などの歴史的な事例を通して、理論的かつ政策的な観点から比較検証する共同研究の成果。

帖合・番線

●——法政大学出版局 2012年05月刊行 定価3150円（本体3000＋税） 四六判上製・278頁  
三井さよ・鈴木智之編著

### ケアのリアリティ 境界を問いなおす ISBN978-4-588-60256-6C1336

〈ケア〉と呼ばれるなかには、看護、介護、介助、支援、援助、サポートなど、複数の選択肢が含まれている。こうしてケアは、その内部ではさまざまな分割線によって切り分けられると同時に、その外部に対する多層的な境界線によって区分されている。本書は、さまざまな現場でなされているケアの営みから、そこに生じる諸問題を検証しつつ、ケアのもつリアリティと可能性を探究する。

帖合・番線

●——法政大学出版局 2007年03月刊行 定価3465円（本体3300＋税） 四六判上製・320頁  
三井さよ・鈴木智之編著

### ケアとサポートの社会学 ISBN978-4-588-67206-4C1036

要介護高齢者、病者・障害者、生活保護受給者までを対象に、それを支える家族、職業的サービス提供者、ボランティアたちに共通する問題群を社会的見地から探る。

#### そのほかの関連書

##### ●看護ケア●

『現代思想2013年8月号特集＊看護のチカラ』、西村ユミ『語りかける身体：看護ケアの現象学』（ゆみる出版）

##### ●当事者研究・体験●

石原孝二編『当事者研究の研究』（医学書院）、熊谷晋一郎『リハビリの夜』（医学書院）、川口有美子『逝かない身体：ALS的日常を生きる』（医学書院）、クリストファー・リーヴ『車椅子のヒーロー：あの名俳優クリストファー・リーヴが綴る「障害」との闘い』（徳間書店）、クリストファー・リーヴ『あなたは生きていだけで意味がある』（PHP研究所）、ロバート・F・マーフィー『ボディ・サイレント：病いと障害の人類学』（平凡社ライブラリー）

##### ●臨床現象学●

村上靖彦『摘便とお花見：看護の語りの現象学』《シリーズケアをひらく》（医学書院）、『現代思想2010年10月号特集＊臨床現象学』、『現代思想2011年8月号特集＊痛むカラダ』

ご注文のさい、ご記入願います。

帖合・番線

ご担当者様氏名 [ ]

ご担当ジャンル [ ]

お電話番号 [ ]

**法政大学出版局 FAX.03-5214-5542/TEL.03-5214-5540**

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 | E-mail:sales@h-up.com | URL:http://www.h-up.com/